



共同通信



2007年5月16日 129号(339号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 29

『一生懸命は美しい』

「一生懸命は美しい」これは小学校の頃、校長先生がよくおっしゃっていた言葉。なぜかずっと心に残っていたこの言葉。小学生の頃はこの言葉の意味がきちんと分かっていたけれど、共同幼稚園で働き始めてからこの言葉の意味がすごく良く分かるようになりました。子どもたちが何かに向かって一生懸命頑張っている姿はとてもキラキラしていて、見ているとすごく引き込まれてしまいます。その姿を見て、周りの子ども

たちも頑張ってみようと思うこともたくさんあります。頑張った結果は必ずしも良いものではないかもしれないけれど、一生懸命頑張っていること、そのこと自体にすごく価値があって、そのことは決してその子の中でマイナスにはならないと思います。そんな子どもたちを見ていると、まさに「一生懸命は美しい」と感じるのです。これまでの人生の中で私は、勉強もそれなりに頑張っていたし、アルバイトも結構頑張っていました。

でも、何に一番力を入れていたか、これまでで何に一番一生懸命になれたのか、と考えてみると、浮かんでくるのは高校時代のクラブのことです。私は、憧れていた楽器があったので、軽音楽部に入部することにしました。私の学年は、3つのバンドが組まれたのですが、私のバンドは男女混合でロックバンドのコピーを主にしていました。さて、私の憧れの楽器ですが、それはドラムです。小学生のときにテレビでドラムを叩いている人を見て、いつか自分もやってみたいなと思うようになりました。それだけ長い間憧れていたこともあり、私は本当に一生懸命ドラムに取り組みました。ドラムに関して無知だった私は、ドラムの本を読んだり家で物を積み上げて叩く練習をしたり、勉強より何より一生懸命頑張りました。週2、3回程の学校での練習は楽しくて楽しくて、それが楽しみで学校に通っていたほどでした。年に2回、校内でライブがあ

りました。ただただ練習するだけではなく、ライブに向けて練習するんだと思うと、自分の頑張ってきたことを多くの人に見てもらおう喜びと、緊張がありました。1年の頃はただただがむしゃらに、叩くことだけに必死になっていたのですが、2年、3年と進むにつれて、楽しみながら、周りを見ながら叩く余裕が出てきました。それと同時に、1年の頃とは違い、ただ叩くだけでなく、技術の向上を目指すので、うまく叩けないことで自分に対する苛立ちが募って、練習を抜け出しては1人で泣いていたことも何度かありました。それでもやっぱりドラムが好きで、何年になっても、クラブの時間は楽しみだったし、部室が自分の居場所でした。

バンドなので、もちろん仲間もいました。私が組んでいたバンドは、女の子3人男の子3人の6人編成。そのうち4人が全くの初対面でした。性格もバラバラで、まとまりがあったのかどうか今でも分

かりませんが、ライブに向けて、3年間一生懸命になって頑張ってきたメンバーなので私が大好きな人たちです。今でも交流があります。

私はドラムで、バンドでは一番後ろからみんなを見渡せるポジションにあります。ライブ中にみんなの一生懸命頑張っている姿を見ていると、緊張もほぐれたし、たくさん力をもらいました。普段のみんなも好きだけど、楽器を演奏しているときが1番好きでした。そして、ドラムを叩いている自分も好きでした。それはきっと、それぞれが一生懸命だったからだと思います。高校時代を思い返して、改め

て感じる「一生懸命は美しい」という言葉。子どもたちと過ごす中で改めて子どもたちからそのことを教えられている毎日です。

(山崎由貴)

日本基督教団西宮公会集会所案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集会所
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公会集会所

あか血液がまた循環はじめての日に街で心が息を吹き返した。例の孤島に渡った後、岩たけの島でどや生誕ひねぞだとはじめて感じたの気持ちに、赤い血がまた味わった。またゆめ歩を続けるが「罪のあがない」は通じた。

(ウイリアム・トルブナー)

床の上に寝かされた中風の者が、イエスのところに運ばれてきた時、「・・・イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に『子よ、しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ』と声をかけます。そうまでして、イエスのところに運ばれてきた人、運んできた人たちにとって、“罪はゆるされた”と声をかけてもらうことでその望みがかなったことになるのだろうか。マタイ福音書のこの物語はもう一つ別の答えも用意しています(9章2～8節)。「・・・あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きて歩け、と言うのとどちらがたやすいか」などの言葉があって、「・・・しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために」中風の者に向かって「起きよ、床を取りあげて家に帰れ」と言葉を付け加えた結果、中風の者は「・・・起き上がって、家に帰る」という、ともあれ望みはなかせられることになります。となるのですが、たとえば中風の者にとって“癒す”ことが先決だとマタイによる福音書は理解していませんでした。そもそも、中風は罪の結果であると理解されていたから、

“罪はゆるされた”となるのはこの場合の“正しい”答えでした。それを“地上”でのこととして解りやすくするために“起きて歩く”という別の答えを用意します。

同じマタイによる福音書11章28、29節には「・・・すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」などのことが書かれています。この場合も“重荷を負うて苦労している者”の、その重荷を取り去ることで何とかしようとは言わないのです。“休ませてあげよう”と言いますが、「・・・私は柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」と、それを“魂”のこととして、更にそれを“しのく術”のことが言及されます。その場合のしのく術として言及されるのが“休ませてあげよう”だったりします。9章2～8節で、中風の者の“起きて歩く”願いが聞き届けられたことにはなっています。しかし、初っ端からそうだったという訳ではありません。付け足しというか、おまけ

のようにして“起きて歩く”は実現することになります。11章28、29節で“重荷”に対する答えは“休み”です。答えが重荷を軽減したり取り去ったりすることになったりはしません。

“休み”が、“重荷”を生きる中風の人への“答え”であったとして、それが全くとんちんかんという訳ではありません。“重荷を負って苦労している者”を前にして、励ましたり教訓を垂れるということもしません。書かれていることを、そのまま読むとすれば、その身をさらすようにして「・・・わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」とは言っています。重荷を負い、苦労して生きる途上で“わたしが休ませてあげよう”と言い得る人との出会いがあったとすれば、その出会いは人は全く喜ばないとは言い難いのです。わたしが休ませてあげようという、その人の“言葉”が人を休ませる力になるかもしれないのです。そうして“休む”時を生きて、その“時”をしのいで、少し先まで人は生き延びてきました。そうだとすれば、重荷は全くそのままであったとしても“わたしが休ませてあげよう”という言葉には託すに足るものがあつたことにはなりません。

「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」に何かを説得する力があるとすれば、それがその身をさらすことで結実した言葉であるからですが、もう一つ別の力がそこには

働いています。存在を引き裂かれて生きるものへの約束、“休ませる”ことです。重荷はそのままですが、“休む”ことでそれを引き受けかつそれをしのいで生きられる何かがここで指し示されています。激しい“痛み”を制御することで、ずいぶん人には救われるようになったといわれます。しかし、制御することで痛みをしのげたとしても、その先には死という重荷が待ち受けています。取り去りがたい重荷です。「わたしが休ませてあげよう」が射程にしているのは、そんな意味での重荷であるかもしれません。それは、身をさらすことで生まれた“休ませてあげよう”という言葉との出会いによって、人には起こると言いたいらしいのです。

(菅澤邦明)

アコーク回一通信(109)

沖縄、もう夏です。本当はこれから「梅雨」のはずなのですが、やはり異常気象なのでしょう。大きな河川のない沖縄は、本土では評判の悪いダムが必要で、そのためにも雨は降ってもらわなければ困るのです。沖縄の人口137万人、観光客560万人、ホントにダムの貯水率は気になります。沖縄で生活して10年目、幸い「給水制限」は経験していないのですが、以前はずいぶんあったようです。

連休、久しぶりに、三泊四日で韓国に行ってきました。1年に2、3回行くようにしているのですが、沖縄とソウルの便が悪いのと多忙で今回は1年半ぶりでした。あ、いや、昨今の「韓流ブーム」ではなく、1970年代の「民主化闘争」からの付き合いです。昔、まじめに韓国語をやっていたころ韓国キリスト教史関係の日本語訳をみんなで作っていたこともあるのです。最初に韓国を訪れたのは1979年、韓国は軍事独裁政権のまっただなかでした。夜間外出禁止令などという今では考えられない時代です。

はい、そういうわけで、ソウルはほとんど自分で自由に歩けるのです。ソウルでは、まず、映画を見るのです。韓国の映画館もシネコンばやりでひとつの劇場で10本くらい上映されていて、フードコートなどもあって楽しめる場所です。今回は、とりあえず林権澤(いむ・ぐおんてく)

監督の「千年鶴」が目当てでした。「西便制 風の丘を越えて」のモチーフをそのままに新しい物語としてできた作品です。映像美とパンソリの妙が絶品でした。けれども4月12日から公開されたこの作品、評価は高いものの意外に観客動員が悪いようでした。あとで何人かに聞くと、どうせDVDで見るからとの答えです。韓国、パソコンで何でもできるので、本当は違法なのですが、その違法映画コピーがべらぼうな安い値段で売られているのです。正規に買えば映画一本のDVDは日本円で5000円くらいでしょうか。それを1本5000円くらいで売られ、屋台の店だと4本で15000円くらい、しかも2ヶ月前封切られた新作が売られているのです。ですから、韓国の映画館は大画面で見たほうがいい作品がどうしても観客動員が多いようです。ちなみに連休、韓国の流行は「スパイダーマン3」でした。念のため、DVDは各国でリージョンコードが違い、韓国のDVDは日本のレコーダーで見れません。私?もちろん、韓国リージョンのレコーダー、持っています。違法コピーを買ったかは黙秘します。

関西で何年か過ごした韓国の友人たちが活躍中で、夕食は毎回美味なるものを食しましたし、行きにくい場所なども案内してくれてうれしい限りでした。小さな博物館や記念館などにも行きました。近頃、韓国文化論にも手を出し「わら生活史博物館」

を見学しました。

これは沖縄と韓国の「縄比較」の学びのためです。また、韓国が民主化宣言したのは1987年6月と、まだ20年しかたっていないのですが、当時機動隊の催涙弾の直撃で死去した李漢烈(い・はによる)さんの記念館にも行ってきました。光州市出身の延世大学学生会の代表だった彼の死という犠牲によって、いつ終わるのか見通しのなかった軍事独裁政権に終止符が打たれたのです。彼の遺

品を見て涙が流れました。

5月、韓国ではいっせいに花が咲き乱れ行楽地にもぎわっていましたが、税金の高さ、大学生の就職率の悪さや何となく広がっている不透明感など課題も多いと感じながら沖縄に戻り、いつもの日常のなかで、沖縄と韓国をつなげようと思っています。

(沖縄・与那原・愛の園 後藤 聡)

今日もきみに会えて

今日もきみに会えてうれしい～と、子どもたちの元気いっぱいの歌声が響いたのは始園式の4月9日！やっぱりこの おはようの歌は素敵！『今日もきみに会えてうれしい、とても素敵な朝だね』本当に歌詞通りの気持ちだった私です。

この日はとってもいいお天気朝でした。太陽に照らされ、ピカピカの帽子がさらに輝いて～そんな帽子を被って幼稚園の門をくぐる子どもたちは、なんだか得意げだったり～ちょっとり恥ずかしそうだったり～…。それでもみんなから共通して感じられるのは『今日から幼稚園が始まるぞ！ドキドキ ワクワク』って様子でした。

年長さんは、わざわざ『さんぼ・らった』の前を通過して...はっぱ・ねっこの

靴箱まで行くし、さんぼ・らったさんは『ぼっぼ』の靴箱に向かったあとでぐる～りと遠回りしてさんぼ・らったへ...そんなみんなの様子を見て思わず、カワイイなあ～ぷいぷいと笑ってしまった私です！

さてその3日後...『やっどぼっぼさんに会えるー！！』と、嬉しくってたまらなかった4月12日！50人(今はまた仲間が増えて52人!)のぼっぼさんが、こちらもまた太陽に照らされたピカピカのオレンジ帽を被って幼稚園にやってきました！

始園式に引き続き、朝からとーっていいお天気

そしてやってきたぼっぼさんを見ると...小さくてぷにぷに！なのです。今のさんぼ・らったさんも1年前はこんなにぷにぷにで、こんなに小さ

かったのか～...と思い、思わず帰って昨年の入園式の写真を見てみた私。確かに小さくてぷにぷに！1年経つとこんなにもたくましく、大きく成長するのだなあ～と改めてみんなの成長を感じさせられました。そしてそんな時を一緒に過ごせたことをとても幸せに思いました。

そして...まだまだぷにぷにのかわいいみんなを迎えて、白、緑、黄色、ピンク、オレンジの5色の帽子が揃った礼拝堂。やっと共同幼稚園に春がやってきたのです。

春といえばチューリップ、桜、たんぽぽ...。畑では『チューリップ』はもちろんのこと、他の植物たちも元気いっぱいぐんぐん大きく成長し、そして花もさかせています。

それから『桜』...4月11日に年長組のみんなと桜ノ宮造幣局へ行ってきました。初めて行った造幣局でいろんな種類の桜を年長さんと見ることができて最高のひとときでした！

そして『たんぽぽ』。年長・さんぽ・らったぐみは千里北公園で、まるでたんぽぽのじゅんたんのような～とってもたくさんたんぽぽを見てきたそうです。園長先生の撮られた生き生きとした『たんぽぽ』の写真を

見ながら、こんなところへおでかけできて羨ましい～！！と思ったのでした。

それから...忘れちゃいけないのが津門川を悠々と泳ぐ年長組のこいのぼり！1匹も同じものはなく、それぞれが自信満々で泳いでいる姿に『さすが年長さん！』と思わずにはいられません。

そんな『年長こいのぼり』が泳いだ瞬間を全クラスで見守った4月17日。ぼっぼさんにとってはこれが『はじめの一步』なのです。

『年長さんのこいのぼりが今から泳ぐよ～！』って聞いたときには『えっ?!ど...どうやっておよぐの...?!ぬれちゃうよ...』と心配そう&不思議そうだったぼっぼさん。それでもビューン！！と、年長こいのぼりが津門川へ勢いよく入っていくと『うわあ～！ほんとにおよいだあ～！』と大歓声だったのでした。

そんな、スペシャル盛り沢山！な4月を過ごした子どもたち

今年度も、子どもたちが『今日もなにかはじまりそう～』ってドキドキワクワクしちゃう毎日を...私も共に過ごしていけたらと思っています。

(藤原紘子)

私が出会ったいろいろな人たち

2006年度4月より、公同通信への連載をさせていただいてきました。今までに副牧師として教会に勤務されていた先生方が、さまざまな形でそれぞれの場所から発信をされており、その連載が区切りの時期を迎え終了したこともあって、新しい連載として書かせていただくことになりました。

今までにあったすばらしい出会いを紹介しながら自分を知ってもらえたら嬉しいという内容で始めた連載は、公同教会で与えられた出会いを紹介することで、通信を読んで下さっている多くの方に教会の様子を少しでも知っていただけるのではないかという思いに変わってゆき、この3年間の出会いに絞りながら書かせていただくようになりました。

「公同教会は、出会いの宝庫だ」ということを、多くの方から聞いた気がします。そして自分がこの3年間を振り返るときにそのことを改めて実感しています。教会という場所で、こんなに多くの人と、そしてこんなに多くの立場の方々とお会いできたということは奇跡のようだと感じています。キリスト教の教会では、たいていは「クリスチャン」と呼ばれる人との出会いが中心です。それぞれに全く違った立場の人間が出会う

場所でもあります。しかし公同教会ほど、教会を中心に、人や街や自然や・・・その他いろいろなことを大切にしている方々に出会うことができる教会は、そう多くないと感じています。

菅澤先生や順子先生、教会を精一杯支えて下さっている教会の方々、幼稚園の先生方や父母の方々、事務所の方々、教会学校の子もたち、商店街、地域の方々・・・などなど、ひとりひとりの出会いや思い出は書ききれないくらい多くあります。こんなことが印象に残っている、こんな言葉や表情が思い出深いなど。ひとつひとつ与えられてきた出会いを通して、自分と出会う機会が同時に与えられ、またすでに知っていると思っていた自分が全然違う自分であることに気付かされたりするなど、自分の生き方も問われる時ともなりました。

3年前、公同教会への赴任が決まりそうであった当時、私はどこの場所の赴任地を紹介されても、それが関西であろうと関東であろうと、もしくはもっと遠い場所であっても、与えられた場所に行きたいと思っていました。でももし偶然の重なりから「公同教会」との出会いが無く他の教会に赴任していたら、今の自分は

いかなかったのかなと思うと、その偶然の重なりに感謝しないではいられません。他の教会に赴任していたとしても、その場で子どもたちと出会い、人と出会い、事柄と出会っていたのかなと想像してみても、なかなか「そうであったはずだ」とはっきりと答えることができないほど、この3年間の生活のすべてが知らず知らずのうちに自分の血となり肉となっていたことに気付かされています。

幼稚園に子どもたちを送り迎えするお母さん方との出会いでは、自分がかつて小さかったこと、家族や両親に愛されて来たであろう当時を想像したり、菅澤先生や順子先生との出会いでは、父と母のことをよく考えました。人は一人では生きていけないのだということを、改めて感じた3年間だったように思います。へまやどじやミスが多く、たいへんな迷惑をかけ続けた3年間でもありましたが、あたたかさの中で育てられた日々心から感謝しています。なかでも、菅澤牧師と順子先生との毎日の出会いの3年間は、本当に多くのことを学ばせていただいたと思っています。先生方に私と同年代の娘さんがいらっしゃることは、私にとってとても大きな心の支えであり、また自分の家族や両親を見つめるきっかけにもなりました。先生方

が娘さんの話をされるとき、また自分が親の思いを想像する機会に、自分は一人では生きていないこと、また一人の人間は誰かに愛されている存在であることを感じました。ご迷惑をおかけすることばかりの3年間でありましたが、とても苦しい時に温かい言葉をかけていただいたことは、一生涯忘れない思い出であり、勇気になっています。

3年という期間ではなかなか変えることが出来なかった自分の存在も、新たに見出した自分も、またたくさん与えられた出会いも、それぞれにどこかでまた新たに出会い直す機会が与えられていくことを願いながら、これからを歩み出したいと思っています。

(田中知恵)

大切な贈り物・津門川 57

“ 津門川掃除をした一年 ”

津門川掃除に参加するようになってから一年がたった。一年もあれば季節は一回りするもので、この川掃除は自分の生活の中では最も季節感を感じるものの内の一つである。春は春で花が咲き川を彩り、夏は夏で眩しい陽射しの下で水の輝きが映える。秋は次の春にそなえての準備が始まり、冬には春をじっと待つ静かな気配を感じる。

川掃除はそんな季節を感じられて、そして季節の中で生きている人達と触れ合える貴重で大切な時間だと思う。そして、それに参加できることに自分は感謝している。

(庄司翼)

2007年5月 あんなこと こんなこと...

- ・5月 1日(火) 午前6時30分～、早天祈祷会
- ・5月 8日(火) 午前10時～、ゆっくり聖書を読んでみませんか
- ・5月 9日(水) 母の会総会
- ・5月 13日(日) 幼稚園・教会学校・母の日礼拝

にしきた商店街...

- ・5月 6日(日) 午後12時30分～ “津門川掃除”
- ・5月 11日(金) 午後4時～
神谷徹 / 魔法のストロー笛コンサート
於：プレラホール
- ・5月 30日(水) 午後18時～19時30分
ノルウェーの音楽『トランペットによるノルウェーの調べ』
ノルウェー料理の試食会
於：西宮公同教会チャペルホール
- ・6月 6日(水) 午後7時30分～、7日(木) 午後1時～
『死のバリエーション』
作：ヨン・フォッセ 訳：長島確 演出：アントワヌ・コーベ
於：兵庫県立芸術文化センター中ホール
- ・6月 6日(水) 公演終了後(約20分間)
『死のバリエーション・バックステージツアー』
於：兵庫県立芸術文化センター中ホール
- ・6月 9日(土) 午前10時～12時 “第9回津門川塾”
「野生メダカが生活し、繁殖できる自然環境を求めて」
於：西宮公同教会集会室

アートガレーヂ

- ・5月 1、15日(火) 野菜市
- ・5月 29日(火)～6月3日(日) ノルウェーのこどもの本展

関西神学塾

- ・5月 11日(金) 桑原重夫先生 「使徒行伝を読んでみよう(23)」
- ・5月 18日(金) 勝村弘也先生 「死海文書を読む(24)」
- ・5月 25日(金) 田川建三先生 「マルコ福音書註解(中)(39)」
- ・5月 28日(月) 岩井健作先生 「岩井健作」の宣教学(54)

教会学校から

《4月の活動報告》

4月1日(日)
イースターカード作り

4月8日(日)
イースター礼拝、卵探しゲーム、卵を食べる!

4月15日(日)
笛で遊ぶ

4月22日(日)
ちょっといいこと・映画鑑賞会

4月29日(日)
作って遊ぶ

4月30日(月)
カレーパーティ

《5月の活動予定》

5月6日(日)
いちご摘み

5月13日(日)
母の日礼拝
作って食べる

5月20日(日)
作って遊ぶ

5月27日(日)
クリーン大作戦

今月のあ・そ・び

“ケーナを作る・ケーナを吹く”

車で市内を回っていて、少し変わった竹を見つけてしまいました。一つは、阪急神戸駅の武庫川右岸に近い神社の黄色っぽい表皮に縦に緑色の腺が入っているフシの長い竹、もう一つは上ヶ原病院の手前、上ヶ原中学校校門前の小さな竹林のやはりフシの長い竹です。何かに使えると思って目をつけていたその竹で、“ケーナ”を作ることになりました。

きっかけは、夏に兵庫県立芸術文化センターで公演予定のオペラ“魔笛”です。地元の西北活性化連絡協議会が関連の催しをすることになった、その催しの一つとして“ケーナ作り”をすることになりました。そのケーナ作りを教えてもらうことになった、西宮市内のケーナなどを演奏する人たちも、ケーナ作りに、この竹に“太鼓判”を押してもらいました。フシの間隔が長く、長さがひと握りで、口径もケーナにぴったりなのです。

そうして計画されたケーナ作りには、子どもたちと大人で計25人くらいが集まりました。フシの一つを残し、約35センチの長さに切った竹の一面(表)に6つの穴、もう一面(裏)に一つの穴を開け、“ふき口”を作るだけの簡単な構造がケーナです。

と、構造は簡単ですが相手は竹です。そこそこ固くて、クセもある竹で、ケーナを作るのは簡単ではありません。教えることになった人たち

は、すべて手作りであることにこだわっていましたが、参加者に子ども達も多かったことから、電動ドリルが使用することになりました。三つ目、ないし四つ目のキリ、そしてヤスリなどを使ってケーナの穴をあければ、なんとかなりますが、電動ドリルを使えばあっという間に終わってしまいます。元になる穴はそうしてあけられるとしても、穴の口径で音が違ってきますから、その調整となるとたやすくはありません。難しかったのは“ふき口”でした。フシのない側がふき口で、その“表”の部分を小指大の半円形に削って、音が出るように調整するのがまた一苦労です。自分でも挑戦したり、手伝ってもらったりして、なんとか“オト”が出るように仕上がった時には予定の時間になっていました。ケーナのだいたいの形状は、“ケーナ作り”の時間で示すことにします。

(菅澤邦明)

まいのなんでも案内

新年度も始まって一段落といったところ、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は今年度こそは真面目な大学生にならないと大学5年生になってしまうかもしれないという追い詰められた状況で、全くのダメ大学生だった去年までとは生まれ変わったかのように日々をおくっております。まあ、やっと学科(研究室)に正式に配属されまして、取れる講義も面白いものが多い、という理由もあるのですが。あ、ちなみに学科は西洋史学科です。中学2年生当時、古代ローマ帝国時代のイギリスを舞台にした歴史小説を多く書いている児童文学作家ローズマリー・サトクリフの魅力に取り付かれ、日記に「卒論はサトクリフで書く!」と、大学も何も決まっていなのに妙に現実的な夢を書いたものでしたが、紆余曲折を経て(いや、あんまり経てないか)そこに戻ってきているようです。英文学科ではないので、サトクリフについて書く、ということはないのですが、むしろ彼女が書いた小説の背景や中身について書けそうなので、結局が一番良い形になったんじゃないかと思えます。とか大口叩いて、一年後、全く違うことになってるかもしれません。が・・・。

そんなわけで、この春から晴れて

18 古代西洋史専門の大学生です。て書

くとむっちゃオタクちっくですが・・・そして実際オタク気質の高い人間ですが・・・。でもでも、外見は全然そんなことない(ハズだ)し、普段から引きこもって研究一筋!って感じの人ではないので、皆様、もし偶然星まつりやら何やらで見かけたときは声かけてやってください。最近遊びに行っても知ってる人がいなくて・・・いえ、何分京都人なものでなかなか行けないんですが。さて、そんな毎日なのですが、何故だか買い物にはよく行っております。おかげで万年金欠です。(自炊自炊!)

中でも最近よく行ってしまうのが、「graniph(グラニフ)」というTシャツのお店。そこそこ有名なんで「デザインTシャツのお店」と言っても分かる方もいるかもしれませんが。ひたすら色んなデザインのTシャツと長袖Tシャツ、あとたまにパーカとかベルトとか、を売ってるお店です。男女兼用(サイズ展開はSS~L)で、Tシャツの形自体もいたってシンプルで、月に1回か2回、新しいデザインのTシャツが何種類も出るので、見てて全く飽きないし、3回行けば1回は何かしらお気に入りのデザインを見つけてしまいます。しかも憎らしいことに1枚2,625円、2枚4,200円。ついつい2枚買ってしまうのです。

まさに奴ら（店）の思う壺です。でもTシャツって何枚あっても困らないし・・・とか思い出したらアウトです。気付けば引き出しの半分をデザインTシャツが占めており、いくら色んなデザインがあるとは言え、スタイルや雰囲気はそんなに変わらないから、着こなしが自然偏ってくるのです。なんて恐ろしい。でも買っちゃう。着やすいし。個人的に長袖Tシャツのカッティングが気に入ってて（細見え）春秋のバイトではやたら着てました。そしてこれからの季節は正にTシャツ！なので、週1では絶対に着ることになりそうです。て、私の衣装事情はどうでもいいですね。で、そんな「graniph」、店舗も結構あるのですが（西宮からだと一番近いのはNU茶屋町かな？）デザインを楽しむだけなら、ネットで充分です。色んなデザイナーさんと契約してて、シリーズものみたいにもなってるので（memeさんというデザイナーのものは特に人気っぽい）お気に入りが見つかるかもです。興味があれば是非どうぞ。

今回は珍しくファッションについての紹介で、ちょっと女子大生气取ってみましたがいかがでしたでしょう。まあ言ってTシャツですが。これからもこんなゆるーい感じで連載していきたいのでよろしくお願いします

（高橋 舞）

つとがわ
編集後記

たぶん、あれもこれもではなく、あれが少し、これが少しと、縮小に心がけるはずなのに、相変わらずあれもこれもで過ごしています。で、あれもこれもなのですが、たまに"得"になることもあります。その一つが、読み始めている「聖母の贈り物」(ウィリアム・トレヴァー)です。全く知りませんでした。一編ずつ読む読む毎に"ウン"とうなってしまふ読み応えのある短編小説集なのです。表題にもなっている「聖母の贈り物」は、"聖母のお告げ"という宗教に始まって、もう一つの"聖母のお告げ"で宗教の終わりが描かれます。描かれているのだと思います。そして、"宗教の終わり"なのですが、宗教が否定される終わりではなく、人として生きるある一つの形を示すことで、宗教働きが超えられるというように。見方を変えれず、宗教の否定ではもちろんなく、宗教の完結と言えなくはないのが、「聖母の贈り物」かもしれませぬ。(K)

先日、短大の友人の結婚式に行きました。初めての同級生の結婚式だったので驚きと緊張が大きかったです...とても素敵なおひとときで、終始笑顔の幸せそうな友人を見て感動しました。(N)

先日、中学生の頃からの友人2人と誕生日会をしました。高校を卒業してから毎年お互いの誕生日会を開いて会っています。今は3人とも全く別の道に進んでいます。会えばすぐに昔の自分に戻れます。次は私の誕生日会。今から楽しみにしています。(Y2)

教会の玄関の横に石うすがあります。そこには水がはられ、水草が漂っています。暫く不在だったメダカも近くの大学から頂いて、戻ってきました。そのメダカ、よくみるとお腹に卵をつけていたんです。無事に水草にも産みつけて、卵が揺られています。毎日見ると可愛くて卵の孵化も、メダカの成長も楽しみ。水の中を覗き込み、メダカに挨拶。最近の朝の日課です。(I)

震災のあと転居することになり、実家が10個ほど段ボール箱を預かってくれた。中味は置場がなければきっと処分するしかなかったものばかり。アルバム、手紙、子どもたちの作品、幼い頃遊んでいた人形など、また今、生きていたら107歳になる祖母の作品(器用な人で晩年それはそれは手仕事を楽しんでいた)の数々。その思い出たちがどっと埃と共に我が家にやってきた。12年も経つのにどうするつもりと言われて連休中に引き取りに行ってきたのだけれど、感心、感動、感激、ただただ手にとって喜びっぱなし、にぎやかなことだった。次男が幼いころひたすら遊んでいた折り紙、ただの折り紙とは思えない作品たちも帰ってきた。親の私が言うのもなんだけれど、実に見事なすごい作品群で、ひとりはいやしているのです。(J)